

# 『今月の天候と農作業』

通巻第5545号  
7月号  
平成24年6月30日発行  
宮崎県  
宮崎地方気象台



## 【九州南部1か月予報】

向こう1か月の気温、降水量及び日照時間の各階級の予想される確率は次の通りです。

## 【確率(%)】

| 要素   | 予報対象地域 | 低い<br>(少ない) | 平年並 | 高い<br>(多い) |
|------|--------|-------------|-----|------------|
| 気温   | 九州南部   | 40          | 30  | 30         |
| 降水量  | 九州南部   | 30          | 30  | 40         |
| 日照時間 | 九州南部   | 30          | 40  | 30         |

## 【概要】

前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。後半は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

〈1週目の予報〉 6月30日(土)～7月6日(金)

天気は、梅雨前線や湿った気流の影響で曇りや雨となるでしょう。

(詳しくは週間天気予報をご利用ください。)

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈2週目の予報〉 7月7日(土)～7月13日(金)

天気は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

〈3週目から4週目の予報〉 7月14日(土)～7月27日(金)

天気は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

## 普通作物

### ◆早期水稲

---

今月下旬から収穫となりますが、台風等の気象災害に備え、最後まで適切な管理を行いましょう。

#### 1 水管理

台風接近時は深水管理で倒伏軽減を図り、台風通過後も、乾燥風等による玄米品質低下が発生する場合がありますので急な落水は控えます。収穫前の落水は品質低下防止のため5日前まで控えます。

#### 2 収穫

収穫の目安は、全籾の80%以上が黄化している時期とします。早すぎると青未熟米が、遅れると胴割れ米が発生しやすくなります。

今年は計画停電で乾燥調整施設の影響も想定されますので、成熟期を圃場ごとによく把握し、施設の状況も踏まえて、計画的に進めましよう。

#### 3 乾燥調整

収穫後の籾は蒸れるとヤケ米が発生するので、速やかに通風や乾燥作業へ移します。急激な乾燥による品質低下を防ぐ為に、なるべく乾燥温度は40度以下で行い、水分14.5～15%に乾燥します。

#### 4 農作業安全

機械操作が多くなる中、あせりや高温により、注意力が散漫になりがちです。ゆとりのある作業と休憩を取る等、農作業安全に努めましよう。

### ◆普通期水稲

---

#### 1 水管理

平坦地の「ヒノヒカリ」は8月上旬より幼穂形成が始まりますので、中干しは7月下旬までには終えます。強い中干しは、根が切れて登熟への影響が大きくなりますので田面に足跡が付く程度から軽いヒビが入る程度とします。中干し後入水する時には、走水を1～2回行った後に入水します。

#### 2 病害虫の防除

ウンカ、コブノメイガ、葉いもちなど水田での観察と、予察情報を参考に防除します。

#### 3 追肥

「ヒノヒカリ」では幼穂の長さが10mmになってから、葉色に合わせて適量を施用します。新品種「おてんとそだち」は、食味安定のため、施肥量はヒノヒカリより少なめにします。

## ◆大豆

---

### 1 施肥

大豆は土壌pH6.0～6.5が適するので、石灰を10<sup>ア</sup>あたり60<sup>キ</sup>前後入れます。元肥は、地区基準をもとに前作物を考慮し施用します。

### 2 耕起、整地

大豆は発芽率が低下しやすいので、十分な排水対策と高畦栽培に努めます。また、発芽を揃え雑草の発生を抑えるために、耕耘は丁寧にします。

### 3 播種

発芽安定のため、種子はキヒゲン等で必ず粉衣しましょう。条間60～70cm、株間20～10<sup>ク</sup>位で播き、覆土の厚さは2～3<sup>ク</sup>にします。播種が7月下旬以降になる場合はやや密植にします。除草剤は播種直後に散布します。散布後に追播すると発芽しないので注意しましょう。

(鎌田 博人)

## 施設野菜

### ◆ 夏秋野菜の高温対策

---

中山間地域の露地きゅうり、雨よけトマト、ピーマンなどでは本格的な収穫時期となります。

雨よけ栽培では梅雨明け後の高温対策が重要となりますので、ハウスは日中できる限り開放し換気に努めるとともに、寒冷紗などを利用し2割程度の遮光を行い、ハウス内の気温や果実、葉の温度が上がらないように管理します。

特に、曇雨天後の晴天日は萎れやすくなるので、早朝からのかん水や、翌日が確実に晴れの場合は、前日の夕方のかん水も効果的です。

なお、薬剤散布は、高温時に行うと葉焼け等の障害が発生しやすいので、午後温度が低下する時間帯に行います。

### ◆ いちごの育苗管理

---

年内の収量を確保するため、7月中旬までには採苗を終え良質苗の生産に努めましょう。採苗後のかん水は、晴天時は早朝に充分行いますが、乾燥するようであれば午後にも夜間に過湿にならない程度にかん水します。

子苗時期の施肥量は多すぎないように注意し、施肥は鉢底から根が確認できる時期から行います。

今年はタンソ病の発生がやや多いとの発生予察結果がでています。定期的な薬剤散布を行い、発病が疑われる場合には周辺の株とあわせ直ちに処分し

てください。また、うどんこ病についても育苗床での徹底防除が重要となりますが、肥料であるケイ酸カリを1株あたり2～3g<sup>ラ</sup>施用することにより発病を抑制する効果があります。

(郡司 孝幸)

## 葉茎根菜類・いも類

### ◆秋冬野菜の土づくり

---

8～9月にかけてにんじんやだいこん等のは種期となります。収量・品質を高めるためには、夏場のほ場管理が重要で、土壌pHの調整や堆肥等の有機質資材の投入による土づくりを行います。

### ◆かんしょ

---

4月植付けのマルチ栽培が収穫期となります。植付け後110～130日が収穫の目安ですが、今年は天候が悪く、いもの肥大が遅れていることが予想されます。100日を経過したら試し堀りを行い芋の肥大を確認してから収穫を始めてください。また、収穫が遅れると皮色や形状が悪化しますので適期収穫に心掛けましょう。

### ◆さといも

---

芋の肥大には土壌水分が大きく影響するため、かん水を行い草勢の維持に務めてください。

3月植えの石川早生が下旬から収穫期となります。数株試し堀りを行い肥大状況を確認してから収穫を始めてください。収穫が遅れると「水晶芋」が発生し品質低下につながりますので、収穫は計画的に行い8月中旬には終了するよう心掛けてください。

中晩生種は7月上旬から子芋の肥大、孫芋の着生時期となりますので、梅雨明け頃を目安に追肥・土寄せ行ってください。また、晴天が続くほ場が乾燥すると芽つぶれ症状が出やすくなりますので、適宜かん水を行い品質向上に努めて下さい。

### ◆しょうが

---

普通栽培では、上旬が一回目の追肥の適期となります。10<sup>ア</sup>当たり窒素成分で3～5kgを施用し、追肥効果を高めるために土寄せも併せて行ってください。また、梅雨明け後の高温乾燥期は乾燥害を受けやすくなるため、適宜かん水を行います。畝間に湛水する場合は滞水しないよう注意が必要です。

(河野 健次郎)

## 果樹

### 1 常緑果樹

#### ◆温州みかん

---

7月中旬から収穫前までが仕上げ摘果の時期になります。今年の温州みかんは、着花数がやや多い状況ですが、園地や樹によるばらつきが多く見られます。

極早生温州では、7月10日の果実横径は、38～48<sup>mm</sup>が理想です。結果量が多く、肥大の悪い樹については早めに仕上げ摘果を開始し、結果量が少なく、肥大の良い樹については、仕上げ摘果を遅らせましょう。

結果部位によっても摘果時期が異なります。樹冠下部は早めに、樹冠上部は遅めに摘果することで、適正な肥大を確保しましょう。

樹冠上部の天なり果を摘果すると、夏枝が発生するので、収穫時に除去しましょう。

#### ◆完熟きんかん

---

開花期のアザミウマ類や灰色カビ病の発生は、果実品質を大きく低下させます。開花期の防除を実施するとともに、枝をゆすって、花びら落としを行いましょう。

満開期にビニル被覆を行った園地では、高温による結果不良が出始めるので、早めに除去しましょう。

#### ◆マンゴー

---

7月下旬以降の剪定は、第二新梢の充実が悪くなることから、翌年の花芽形成を悪くすることがわかっています。早めに剪定を行うよう心がけましょう。

剪定を行ったら、発芽を早めるために夜間の保温と蒸し込みを行いましょう。

既に新梢の発生している園では、葉面散布や発根促進剤の利用、新梢の整理によって、新梢の充実促進を図りましょう。

施肥は、土壌分析の結果を見てから、必要に応じて実施しましょう。

(山口和典)

## 花き

#### ◆キク共通

---

梅雨が明けると6月からの曇雨天から一転し、日差しの強い日が続きます。葉焼けなどが発生しやすい時期になりますので、本ぽでは遮光や換気を行い、葉温の低下を図りましょう。また、予防散布や発生初期の防除を徹底して病害虫被害を防いで下さい。親株ほ場においても防除を徹底し、苗とともに病害虫

を本ばに持ち込まないよう気を付けましょう。

#### ◆夏秋ギク

---

「フローラル優香」の8月出荷では花芽分化・発達を促すために消灯後から12時間日長のシェード栽培を2週間を目安に実施して下さい。夜間はシェードを開放し、気温が高くならないよう管理して下さい。高温や消灯遅れ、多肥によって貫生花の発生が多くなりますので、適正管理に努めましょう。

#### ◆秋ギク電照

---

「神馬」系品種は、穂の冷蔵期間が長くなると定植後の活着が悪い傾向にありますので冷蔵期間は3週間を目安としましょう。「神馬66-4」「神馬2号」は高温に遭遇すると腋芽が出にくくなり、穂が不足する場合がありますので、親株床はできるだけ涼しくし、親株の株数も余裕を持って植え付けを行いましょう。

#### ◆洋花類

---

秋に定植するほ場の土壌診断を必ず実施し、分析・診断結果に基づいた施肥を行いましょう。また、改良太陽熱消毒等の土壌消毒を実施し、連作障害の回避に努めて下さい。トルコギキョウ、デルフィニウムは冷房施設等を利用した育苗期になりますので、適切な温度管理を実施して、早期抽だいやロゼット防止に努めて下さい。

#### ◆ホオズキ

---

8月出荷分は上旬から段階的にピンチ・摘葉・着色のためのホルモン処理を実施して下さい。ホルモン剤散布の1週間前までにはアザミウマ類・ダニ類・うどんこ病等の防除を徹底して下さい。ホルモン剤散布後の高温は色ムラ発生の原因になりますので、散布はできるだけ涼しい早朝に実施し、散布後数日は必ず寒冷紗により遮光して下さい。

(中村 広)

### 畜産

7月の中旬以降、特に梅雨明け後の晴天は急激に気温が上昇し、家畜にとって大きなストレスになり、その後の生産性に大きく影響することになります。本格的な酷暑を迎える前に、快適な畜舎環境づくりのために以下の対策を検討、実践してください。

① 畜舎内の温度を下げる。

畜舎の屋根への石灰や断熱塗料の塗布で畜舎内の温度が2～3℃下がります。

す。また日中の暑い時間帯の屋根への散水も温度低下に効果があります。

② 家畜ストレスを低減させる。

密飼を改善して風通しを良くし「イライラ」を無くし、家畜のストレスを減らしましょう。

③ 家畜の健康維持に努めましょう。

冷たい水を充分飲めるようにして食欲低下を防ぎましょう。涼しい時間帯に消化の良い良質の飼料を数回に分けて給与しましょう。

④ 異常家畜の早期発見・治療に努める。

夏場の病気がその後の発育等に大きく影響します。早めに家畜の異常を確認し、担当の獣医師に連絡しましょう。

今月下旬にはトウモロコシの収穫時期になります。子実の登熟状態を確認しながら栄養収量も高く、70%前後の水分量でサイレージ調整にも最適な「黄熟期」を目安に計画的な収穫に努めましょう。

(小坂 昭三)

## 特用作物

### ◆茶

---

#### 1 三番茶の摘採

三番茶の摘採は、二番茶の摘採から30～35日後が目安です。この時期は新葉の硬化が早く、摘採期の幅は同一品種、条件で3日程度ですので、摘み遅れに注意し、お茶の価格と経費を考慮した計画的で無理のない摘採を心がけてください。特に、気温が高いため生葉管理に注意し、葉傷み等の欠点が出ないように注意して製造してください。

#### 2 病害虫の防除

チャノキイロアザミウマやチャノミドリヒメヨコバイ、ハマキムシ等の害虫の発生が多い時期ですので、茶園をよく観察し、適期防除を心がけてください。また、気温が高く輪斑病の発生が増加する時期でもありますので、三番茶摘採直後に地区の防除基準に従って防除してください。

#### 3 更新茶園の整枝

一番茶後に中切りした茶園では、7月上旬と8月上旬に2回の整枝を行い、二番茶後に中切りや深刈りした茶園では、8月上旬に1回整枝を行います。整枝は、いずれも中切りの位置から3～5センチ上げた位置で実施してください。

## 4 幼木園の管理

定植当年の幼木は根域が浅く、梅雨明け後の干害が心配されます。

ペーパーポット苗の植え込みが浅く、ポットの上部が地表から出ている場合には、ポット内の土壌が乾燥し苗が枯死することがありますので、土寄せや敷きワラ等を行い、土壌の乾燥を防ぎます。

1～2年生の幼木園では、台風の襲来に備えて、7月中～下旬に徒長枝の摘心やせん枝を行います。また、ソルゴーの間作は防風効果が高く、台風対策に有効ですので、7月上旬までに播種して下さい。

(佐藤邦彦)

### ◆しいたけ

---

伏込地の湿度管理と高温対策を徹底し、しいたけ菌糸をまん延させ、害菌の侵入を許さない健全なほだ木づくりに努めましょう。

#### 1 裸地伏せの場合

笠木を厚さ30㎝程度に補充し、直射日光による高温障害に注意するとともに、周囲の刈払いを実施し、風通しを良くしましょう。

#### 2 林内伏せの場合

直射日光が当たる箇所には、笠木の補充や遮光ネットを設置しましょう。特に湿気が多い場合は、ほだ木の積み替えや天地返しを行うとともに、周囲の刈払いを実施し、風通しを良くしましょう。

#### 3 人工ほだ場の場合

特に高温・乾燥の害を受けやすいため、遮光ネットによる庇陰の調整や散水などにより、温湿度の管理を徹底しましょう。

#### 4 病虫害の防除

この時期は、害菌や害虫が活動しやすい時期ですので、ほだ場の巡回を行い、防除に努めましょう。

(小田 三保)

### ◆葉たばこ

---

今月は、総掻きが主な作業となります。熟度状況を良く見て収穫すると共に完全収穫に向け、流れそうな合葉の拾い取りと立枯病のグジリ取りを行い、品質向上と収量の確保に努めましょう。

1 総掻きは、未熟葉の収穫を避け、十分に熟度を進めて行い、最上位本葉



の成熟を確認して開始しましょう。また、着位区分は、徹底しましょう。成熟の目安としては葉色でなく、葉や中骨が左記の状態になっているか確認して下さい。

①葉の表面が凹凸になり葉先が枯れる。

②中骨が白化して中骨の表面が平らとなり中心にミゾができ、ポキッと明音がして折れやすくなる。

2 残幹根は土壌中の菌密度増加につながりますので、収穫終了後、早期に除去し、ほ地外へ持ち出して、耕種的防除に努めましょう。

3 異物・異臭・虫害発生防止のため、定期的な確認と作業場の清掃を行いましょう。

また、早期販売に向け、水分・異物・虫害の確認を行い、出荷の事前準備を行いましょう。

(井上 馨)

#### 内容の詳細について

7月の天候と農作業の詳細内容について。執筆は県営農支援課及び森林経営課、宮崎たばこ耕作組合が担当しています。各作物の病虫害の防除対策、気象災害の事前事後対策等の詳細は最寄りの支庁・農林振興局（農業改良普及センター）へ

※また今月は計画停電に備えた留意事項を掲載していますので参考にしてください。

## 計画停電に備えましょう！！

今夏の電力需給ひっ迫が予想されています。園芸用施設や畜舎等の農業用施設の点検を行い、日頃から節電に心がけましょう。その上で、計画停電に備えましょう。

### 1 計画停電に対する心構えについて

- ・計画停電が実行される場合を想定し、農業用施設や畜舎の所在する地域の停電に関する情報をしっかり把握し、計画停電が実行された場合でも影響をできるだけ軽減することができるよう、十分に備えましょう。
- ・自家発電機等を個別に用意することは難しいようですが、他の計画停電区域の方々と融通しあうことも一つの対応策です（畜産では防疫面を十分注意して）。

### 2 早期水稲の収穫・乾燥調整について

- ・収穫乾燥調整作業中に停電した場合、高水分の生粳は乾燥機等の中で変質（やけ米）をおこし、商品価値が著しく低下する恐れがあります。
- ・JAやもみすり業者等との情報交換を密にし、計画的に収穫しましょう。また、粳の水分含量が高い降雨後や早朝の収穫をできるだけ避けましょう。
- ・乾燥中に停電になった場合、可能な限り乾燥機内の通気を確保し品質低下を防ぎましょう。
- ・乾燥機の機種によっては、乾燥中に止まると輻射熱の影響で品質低下が生じる危険があります。事前にメーカーに確認しておきましょう。

### 3 園芸施設や予冷・保冷库について

- ・停電によって、施設の自動開閉装置等の環境制御ができなくなったり、予冷・保冷库内の温度上昇による品質低下等が懸念されます。
- ・かん水・防除等は停電時間を避けて計画的に行うとともに、不測時に備えてタンク等に予備水を準備しておきましょう。また、自動開閉装置等は手動に切り替えるとともに、寒冷紗等の遮光資材を活用しましょう。
- ・環境を制御する機器は、停電により条件設定が初期化されたり、時間がずれたりする場合があります。停電復旧の度に設定を確認しましょう。
- ・予冷・保冷库のドアの開閉は最小限にするとともに、入り口のカーテンを設置する等、庫内の温度上昇をできるだけ抑えましょう。

### 4 茶について

- ・停電により荒茶製造工程が中断してしまうと品質が著しく低下します。停電時間と加工時間が重ならないよう、茶園での収穫時間を調整するなど計画的な摘採を行いましょう。

### 5 畜産について

#### (1) 畜舎管理（防疫面を十分考慮した上で対応を！）

- ・側壁の窓や天窓、カーテンを全面開放し、通風に努めましょう。併せて、畜舎外回りの環境整備（除草等）により、畜舎内に溜まった熱気の排出を促す工夫も行いましょう。
- ・よしずや寒冷紗等で直射日光を遮るなど、なるべく家畜が暑さを感じない環境づくりを行っておきましょう。
- ・屋根への散水又は工業用消石灰等を塗布し、畜舎内温度の低下に努めましょう。
- ・必要に応じて、早朝や夕刻に畜舎周辺への散水（打ち水）を行いましょう。
- ・畜舎内の通路は、整理、整頓に心がけ、通風を妨げないようにしましょう。

#### (2) 家畜の管理（いつも以上に家畜の観察を！）

- ・密飼いを避けるとともに、給水は、常に新鮮な水が飲めるようにしておきましょう。
- ・制限給餌（夜間等の涼しい時間帯の飼料給与）で家畜の体温の上昇を抑えるとともに、ビタミンやミネラル類の補給を適宜行いましょう。
- ・必要に応じて細霧噴射機等を利用し、家畜に直接散水しましょう。ただし、密閉状態下では湿度が上昇し、体感温度も上昇してしまいますので、畜舎内の状況で的確な判断をしてください。

#### (3) 関連施設・設備（故障等が無い事前の確認を！）

- ・井戸水など動力ポンプを用いている場合は、あらかじめタンク等に必要な水を溜めておきましょう。
- ・冷蔵庫や冷凍庫等の保冷設備は、開閉を極力少なくし、温度の上昇を避けましょう。
- ・バルククーラー内の貯留乳の温度は、計画停電実施前までに4℃±1℃まで冷却しておきましょう。

※ 貯留乳が十分に冷えるまでに2時間程度かかりますので、注意が必要です。

## 向こう 1 か月間における農作物の主な病害虫の発生量と防除対策

| 作物名            | 病害虫名  | 発生量                                     | 発生状況と防除対策   |
|----------------|---|---|---|
| 早期水稲           | 穂いもち ※<br>紋枯病   | 並<br>並                                  | 今年梅雨入り後の降水量が多いため、いもち病の防除情報を発表しています。葉いもちが発生している場合は、穂ばらみ期から穂揃期の防除を確実にを行います。   |
|                | 斑点米カメムシ類※   | やや多                                     | カメムシによる被害は、早期米の等級格下げの重要な要因です。穂揃期とその7～10日後の2回防除を徹底します。多発して防除後も残存虫が確認される場合は、さらに追加防除を行います。   |
| 普通期水稲          | 葉いもち ※  | やや多                                     | 苗いもちの発生が確認されているため、防除情報を発表しています。本田での初発生に注意し、早期防除に努めます。   |
|                | ウンカ・ヨコバイ類   | 並                                       | 今年はまだトビイロウンカの飛来は確認されていませんが、今後とも当センターの発生予察情報等に注意してください。  |
|                | コブノメイガ  | －                                       | ニカメイガは、昨年飼料イネにおいて被害が広範囲で確認され、本年は早期水稲についても被害を確認しています。7月上中旬頃の発蛾最盛期に   |
|                | ニカメイガ<br>スクミリンゴガイ   | －<br>やや多                                | 粒剤を施用するのが効果的です。<br>スクミリンゴガイの生息数が多い場合は、捕殺するか粒剤の水面施薬を行います。  |
| 野菜・<br>工芸作物    | アブラムシ類  | 並                                       | アブラムシ類は、各種のウイルス病を媒介しますので育苗期から周辺の寄主植物を含めて防除します。育苗施設は野外からの飛び込みを防ぐために、防虫ネット等で被覆すると効果的です。   |
|                | ハスモンヨトウ<br>等チョウ目害虫  | 並                                       | ハスモンヨトウは、ふ化直後に葉裏で集合して加害しますので、この時期の発見に努め、若齢幼虫期に防除を行います。  |
| ウリ類            | 黄化えそ病   | －                                       | 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの生息密度を抑制するため、定期的に防除するとともに、ほ場周辺の除草に努めます。<br>本病と疑われる症状が発生した場合は、最寄りの農林振興局・西臼杵支庁（農業改良普及センター）または当センターまで連絡をお願いします。   |
| いちご<br>(親株)    | 炭疽病 ※※  | －                                       | 親株から採取した葉を検定した結果、感染株率が過去7年間で2番目に高く、注意報を発表しています。親株における本病の検定に努め、感染が確認されれば適切に処分するとともに、健全な親株への定期的な更新に努めます。  |
| 果樹全般           | 果樹カメムシ類 ※   | 並                                       | 成熟の早いナシ・ブドウ等の果樹類を集中して加害する恐れがありますので、園内外を見回り、早期発見・早期防除に努めます。  |
| カンキツ<br>(露地栽培) | 黒点病<br>かいよう病  | やや多<br>並                                | 黒点病は、降水量が多いほど発生が多くなるので、前回の防除から積算降水量300mmを散布間隔の目安として薬剤散布を行います。   |
|                | カンザワハダニ<br>チャノキイロアザミウマ  | やや少<br>並                                | いずれも生息密度が高くなると防除が困難になるので、早期発見・防除に努めます。  |
| 茶              | 炭疽病 ※※  | 多                                       | 炭疽病の発生が多いため、注意報を発表しています。二番茶残葉に炭疽病の発生がみられる茶園では、三番茶でも多発する恐れがあるため、三番茶萌芽期～1葉期に重点的に防除します。  |
|                | カンザワハダニ<br>チャノコカクモンハマキ<br>チャハマキ<br>チャノボウガ<br>チャノトリヒメヨコバイ<br>チャノキイロアザミウマ<br>クワシロカイガラムシ | 並<br>やや多<br>やや多<br>並<br>並<br>やや少<br>やや多 | カンザワハダニ、チャノキイロアザミウマは、多発してからでは防除が困難になるので早期発見・防除に努めます。<br>チャノコカクモンハマキとチャハマキの防除適期は、初蛾最盛期の7～10日後で、両種の発蛾最盛期の差が10日以内であれば同時防除が可能です。<br>クワシロカイガラムシの防除適期は、幼虫ふ化最盛期です。時期を逸すると防除効果が低くなりますので、ふ化状況を確認してから薬剤散布を行います。 |

- 1) 「発生量」は、過去10年間の発生量と比較して、今後の発生量がどの程度になるか予測したものです。  
 2) ※については防除情報、※※は注意報を発表していますので、詳しくはホームページをご覧ください。  
 病害虫防除・肥料検査センターのホームページアドレスは、<http://www.jpnp.ne.jp/miyazaki>です。